

(様式2)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 23年6月17日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490100264		
法人名	有限会社 もえぎ		
事業所名	グループホームもえぎ野		
所在地	広島市安芸区船越南3丁目23番6号 (082) 822-8181		
自己評価作成日	平成23年2月8日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.hksjks.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3490100264&amp;SCD=320">http://www.hksjks.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3490100264&amp;SCD=320</a>
-------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	(社福) 広島県社会福祉協議会
所在地	広島県広島市南区比治山本町12-2
訪問調査日	平成23年5月11日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

その人その人の、今までの物語（生活歴）を大切に、スタッフも物語を知った上で、各入居者の心に寄り添うケアを実践している。また、入居者の心が動いた時に、すぐに行動ができ、そして小回りのきくケアを実践している。個々人それぞれにケア内容は違い、一人ひとりが持つ力を最大限に活かし、笑顔が絶えないケアをスタッフ一丸で取り組んでいる。理念である「笑顔と温もりの中でそして家族として…」を大切に考え色々な場面において、自分の親や祖父母だったらどうするだろうかと常に自分自身に問いかけ、もえぎ野が入居者様の「家」に近づけるように日々努めている。もえぎ野から地域へ、どんどん外に出て行くようにしている。また、家族や知人、ボランティアの方々の訪問を積極的に受け入れ、常にだれでも気軽に入ってこられるような雰囲気作りに努めている。地域とのつながりを大切に考え、保育園などに企画を持ち込み、一緒に行事などを行う事で、地域との触れ合いに努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

グループホームもえぎ野（以下、ホーム）の母体法人は、グループホームをはじめ複数の地域密着サービスを実施されています。地域の利用ニーズから支援の必要性を強く感じ、その思いを形にするべく、平成22年8月に当ホームを開設されました。地域の町内会へ加入、家族会も設立するなど、地域に根を張る準備を進めておられます。ホームの基盤づくりについては、既設の事業所を参考にしながら「もえぎ野」らしいホームづくりをめざしておられます。その一つに保育園児と利用者の定期的な交流があります。また、ボランティアの受け入れなどにも積極的であり、利用者中心の取り組みに努めておられます。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営（あかね）					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	「笑顔と温もりの中でそして家族として…」という法人理念があり、その理念を基にユニット目標、個人の目標を作っている。年度末に目標についての評価を行って次につなげている。	年度当初に、ユニットごとに介護目標を掲げ、年度末に達成度評価が行われています。また、職員一人ひとりが個人目標を立て理念の具体化に取り組まれています。個人目標はスタッフルームに掲示することで意識づけが図られています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域で行われるお祭りや地元の行事などに積極的に参加することで地元の人々と交流することに努めている。	町内会の一員として地域行事へ積極的に参加したり、保育園児と定期的に交流をしたりして、新たな出会いを大切にされています。また、玄関先に「ホーム掲示板」を設置し、地域住民や通行者への情報発信も行われています。	掲示板は目に留まりやすい場所に移すなど、地域の人たちの理解がさらに広がるような工夫を期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	認知症アドバイザーとして地域の方に認知症について理解してもらうように活動している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	二か月に一回状況報告を行い、構成員の皆様にも助言を頂き、サービス向上に努めている。出席できない職員等は議事録を読み内容を把握している。しかし、定期的に読んでいる職員は少ない。	2か月ごとに開かれる会議には、利用者、家族会代表、地域代表、地域包括支援センター職員と共に、他のグループホーム職員の出席もあります。ホームの日常が報告され、当面の課題など活発な意見交換が行われ議事録に残されています。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	事業所は、市町担当者と運営推進会議にて話し合い、市町とともにケアサービスの質の向上を目指している。	区担当者とは、必要に応じて連絡を取り合われています。市からの要請で高校生の福祉体験を受け入れたり、認知症サポーター養成講座などに法人代表者が講師として出向いたり、啓発活動に協力されています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>全体会議で、身体拘束についての勉強会を行い、身体拘束をしないケアについて、職員の意識統一を図っている。また、研修会にも参加し、日々拘束は行わない事を職員全体が認識してケアにあたっている。</p>	<p>職員全体会議の場を活用し、テーマ別研修が行われています。身体拘束をしないケアについても学ぶ機会を持ち、抑制のないケアが実践されるよう意識統一が図られています。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>管理者や職員は、事業所内で虐待が起こらないように、また虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、言葉による虐待や、入居者の希望を制限するなどの虐待を含め、虐待防止に努めている。利用者については入浴時に皮膚観察を行うなど、異変が無いが常に注意を払っている。会議にて虐待の防止について研修を行っている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>現在入居されている方にも、成年後見人の方がおられるが、詳しく制度などについては、分かっていない職員が多くいる。今後会議などで勉強会を開きしっかり知識を持っておくようにする。そうすることで家族からの要望や質問に的確に答えて行きたい。</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>面接時、家族の不安や疑問などがあれば契約時に契約内容の説明をしっかり行い、納得して頂いてから、契約をしてもらっている。また、事前に見学を行ってもらい、しっかりとえぎ野を理解してもらってからの契約を行うように努めている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>開設当初より家族会を発足し、家族会を通して要望等を上げて頂けるように話をしていく。また、直接要望などを言って頂くように契約時にも話をしており、意見・要望があればできるだけすぐに改善するようにしている。</p>	<p>家族会の存在が運営面に関する要望、意見などが伝えやすい要素となっています。また、ホーム行事への家族参加についても協力体制が築かれています。家族がいつでも遠慮せず気づきや意見が言えるような雰囲気作りに努めておられます。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>月に一回、会議を開き、また茶話会などで管理者に話をするなど意見交換をしている。日頃から不満・苦情など気軽に話が出る様に、職員とコミュニケーションを図っている。</p>	<p>ホーム内では月1回茶話会が開かれ、自由な発言の場としてさまざまな話し合いが行われています。法人代表者や管理者との個別面談も実施するなど、職員とのコミュニケーションを図り、共に良いホームを築くよう努めておられます。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>向上心を持てるように、ユニットの年間目標及び個人の目標を作成している。受けたい研修を聞き希望に沿った研修に参加出来る様にしている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>年間で研修計画を立て法人内外の研修を受けられる体制を作っている。職員の興味がある研修を聞き、希望に沿った研修が受けられる。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	<p>安芸地区地域密着型サービス事業者交流会を定期的開催し参加し他施設とも積極的に交流をもっている。</p>		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>利用前には事前訪問もしくは事前にホームに来てもらい、説明や本人の要望や、不安などを話しながら受け止めるようにしている。入居されてからも、積極的にコミュニケーションを図り、ご入居の方が安心できる関係作りに努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>利用前に事前訪問する。事前にホームに来てもらい、説明を行い、現在家族が困っている事等を聞くようにしている。入居されてからも、しっかり家族と会話をする事で関係作りに努めている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>利用前に本人・家族より話を聞きアセスメントをしたうえでサービス内容を検討している。また、定期的にスタッフとも話し合いを行う事で、今必要なサービスの検討を行っている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>一緒に食事をしたり行事などを行い、家族としての気持ちを持って、接している。共に過ごすことで共感できるように努めている。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>いつでも面会に来てもらっている事で、家族の方と絆を大切にもらっている。家族会が出来ているので合同で行事を行うなど、家族の方と一緒に行事を行う事で、本人を支えていくように努めている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>知人・友人からの手紙や電話でのやり取りを大切にしている。知人・友人の面会も自由に来てもらっている。</p>	<p>入居前の暮らし方を一人ひとり把握して、これまでの関係が途切れないよう支援されています。種から育てた苗を知人や友人などに贈ることを楽しみにして、園芸に励む利用者の姿が見られました。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者同士話が出来るように職員が中に入り、支援している。相性の悪い方とも話が出来るように、スタッフが中に入り共有の時間を過ごすように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約が終わっても、相談があれば対応し、今までの関係を断ち切らない様、対応する予定にしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	自分の要望を出せる方については、可能な限り対応している。しかし要望が出せない方については、茶話会などを通じて話し合いその人が何をしてほしいのかを考えている。	入居時に一人ひとりの生活歴や暮らし方について希望を聴取し、個別支援を心がけておられます。また、日々の暮らしの中からも思いや意向を把握し、全職員が共有できるよう取り組まれています。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	面会時に本人の生活歴を家族に聞いたり、本人との会話の中で生活歴や馴染みを聞かせてもらっている。しかし、細かく情報は聞き出すが、きちんと整理できていない。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日常生活を通して、その人らしい生活が出来るように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>本人・家族から話を聞き、アセスメントを行ったうえで、介護計画を作成している。また、本人・家族の求めているものが提供出来るように、スタッフ間で話し合いをしたりして計画を立てている。</p>	<p>アセスメントを行い、一人ひとりの状態に合わせた計画の作成に努めておられます。入居直後は特に配慮が必要と考え、利用者の不安が少しずつ緩和されるよう家族と連絡を綿密にとられています。介護計画の見直しも定期的に行われています。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>個別の記録用紙があり入居者の状態を毎日記録している。職員は業務に入る前に記録を読み情報の共有に努めている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>本人や家族の要望に向かい合い、その時々に必要なケアが出来る様にしている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>絵手紙やフルート演奏等の地域ボランティアの方に月一回程度来てもらっている。地域の保育園の方にも話を行い、定期的な訪問してもらえるように計画している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>隔週、協力医の往診がある。また、本人家族の希望があれば、馴染みの医師による受診が受けられるようにしている。</p>	<p>協力医からは定期的な往診と24時間連絡可能な体制があり、突然の体調不良などの対応について安心感があります。かかりつけ医への受診は家族や職員が付き添ったり、往診してもらったりする入居者もいます。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>もえぎ野内で看護師を確保し、日々バイタルCKなどを行って入居者の健康管理の把握に努めている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時、地域連携室に話を行い、情報交換などしっかり行うようにしている。入院中も面会など行い、関わりを継続する。また医師などと連絡を取り、なるべく早く退院出来るよう努めている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>重度化した場合や、終末期の在り方について、入所時の考えを本人、家族に説明している。必要時期になったら、本人家族の思いを汲みながら、地域関係者ともチームで取り組んでいく方針を持っている。</p>	<p>開設されて間がないこともあり、看取り経験はありません。できるだけ、本人・家族の希望に添う姿勢を持ち、「看取りの指針」も作られています。</p>	<p>看取り、重度化への対応については早い段階からの準備が必要と考えられます。研修等を通してさらに職員の資質を高めていかれるよう期待します。</p>
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>急変時、事故発生時に備えての訓練は徐々に行っているが、(AED使用法、救急蘇生法など)現時点で職員全員が実践力を備えているとは言えない。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>年2回、防火訓練を行っている。事務所に避難経路や消防に通報する設備を備えている。地域の方に参加要請を行っているが、参加には至っていない。</p>	<p>これまでに防火訓練が2回行われています。消防署の指導を受け、避難経路も確保されています。また、家族会からの提案を受けて、風水害を想定した訓練を実施される予定です。</p>	<p>訓練を通じて職員から出た反省点を今後の災害対策に活かすとともに、今後は地域ぐるみでの防災体制を築かれることを期待します。</p>



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	それぞれの入居者のプライバシーを損なわないような言葉かけを行っているが、出ていない時もある。	職員は認知症のために起こるさまざまな症状を理解し、一人ひとりに適した言葉かけが行われています。トイレ誘導はタイミングを見計らってさりげなく誘導が行われるなど、プライバシーに配慮した場面が確認できました。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	声かけなどをし、日によって違う気分や体調を見極め、それぞれの入居者が納得出来た生活を出来るように努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	本人のペースで出来るように対応しているが、時々それが行えていない事がある。出来る所は自分でやって頂き、難しい部分は職員が支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	本人の意思を尊重し、その人が着たい服を尋ねながら、支援を行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	本人の好みを取り入れたメニューを心掛けている。また、食事なども一緒に取り、声かけをしながら、楽しい雰囲気になるように努めている。	利用者の好みを考慮し、ユニットごとに献立を立て、買出しから調理までホームで行われています。ユニット間でおかずをおすそ分けしたり、家族から差し入れられた食材が食卓に並ぶこともあります。おやつ作りでは利用者が力を発揮する場面も多く、食の楽しみが大切にされています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>食べる量は、体重の増減などを見ながら変えている。水分は、食事にはお茶やみそ汁を出しており、その他にも、おやつの間や入浴後などに、定期的に摂取してもらい、脱水にならないように努めている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>毎食後、声かけを行い、口腔ケアを行っている。状態によっては、歯科通院・訪問を行っている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>1日を通し、トイレに行った時間、回数など記録し、把握しておく。排泄をなるべくトイレで行ってもらえるよう、声かけ等を行っている。また、食事・水分の摂取量に気をつける。</p>	<p>入居者一人ひとりの様子を見ながら，その人に適した排泄支援に努めておられます。必要に応じて排泄チェックも行われ，入居者にとって排泄が困難とならないよう支援されています。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>起床時、食後などは便意の有無にかかわらず、トイレの声かけを行う。繊維物質のあるものを、食事に取り入れ、便秘時には、排便コントロールを行っている。またトイレ時にはしっかり力んでもらうように声かけを行い自分で排便できるように援助している。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>体調などを考慮し、無理はせず、入浴を楽しめるように、その人の希望に合った介助などを行っている。季節湯なども楽しんでもらう。</p>	<p>入居者の体調をみながら，無理強いはずせず，ほぼ一日おきの入浴となっています。ゆっくり入浴できるように一人ずつの入浴とし，その人に合わせた介助が行われています。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	居室にはベッド、フロアにはソファなど休息出来る場所を作り、どこでも休んでもらえるようにしている。		
47		○服薬支援  一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	作用や用法、用量を理解し、入居者服用前には、2～3人のスタッフ同士で声に出して確認しあい、誤薬などが無いように努めている。しかし、再々薬が変更になる為、しっかり把握できていないことがある。		
48		○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	毎月、外出行事など行う事で、日々の楽しみを持ってもらえるように考えている。来年度からは、職員が、一人ひとりが企画して年間行事作成している。また、季節季節の地域行事にも積極的に参加できるようにしている。		
49	18	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	買い物の際は、入居者と一緒に近所のスーパーなどに出掛けているが、個人的な買い物はあまり行えていない。大きな買物の場合、本人の希望を家族に伝えて、家族の方が連れて行かれている。	近くの公園への散歩、スーパーへの買出しなど日常的な外出の他に、地域の盆踊り、家族との花見や日帰り旅行など年間を通して、さまざまな外出行事を計画されています。「体が動ける時に多くの思い出を…」との思いが一つ一つの行事に込められています。	
50		○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	本人から要望があった場合、スタッフが持ち出して使用している。ただ入居者1人で使ったり、所持したりしてはいない。買い物に同行した場合、本人に支払ってもらうこともある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>本人から要望があれば、ご家族に電話を出来るように取り組んでいる。プライバシーを考慮し、居室で話してもらっている。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>居間は、その季節に合った温度を保ち、ソファやTVなどを置き、入居者が落ち着いて過ごせる様に工夫している。</p>	<p>リビングルームには、ソファが置かれ、ゆっくり出来る空間があります。壁面には外出時のスナップ写真や絵手紙、手作りのカープ応援旗などが飾られています。玄関先には色とりどりの花を育てられ、外気浴、気晴らしの場として利用されています。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>ソファやテーブルを置き、入居者同士がゆっくり話が出来るように、努力しているが、共用空間に、独りになれる空間はないのが現状。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>家で使っていた家具などをそれぞれの居室に置き、自分が家にいるような空気作りを行っている。</p>	<p>入居者が家にいる時と同様に、安心できる空間となるよう、家族と相談しながら部屋づくりをされています。これまでの生活習慣や趣味が尊重され、持参した生活用品などが置かれていました。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>入居者が出来る所は、出来るだけ自分でやって頂いているが、時々、それが出来ない事がある。</p>		

V アウトカム項目（あかね）			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営（あおい）					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	「笑顔と温もりの中でそして家族として…」という法人理念があり、その理念を基にユニット目標、個人の目標を作っている。年度末に目標についての評価を行って次につなげている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	管理者や職員は、近隣の方々と気軽に挨拶を交わしたり、日常的なつきあいが出来る様に努めている。また、お祭りや地域行事に積極的に参加し、地域の方々との交流を図っている。また近所の公園に散歩に行き、近所の子供達と交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	認知症アドバイザーとして地域の方に認知症について理解してもらうように活動している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	二か月に一回状況報告を行い、構成員の皆様に助言を頂き、サービス向上に努めている。出席できない職員等は議事録を読み内容を把握している。しかし、定期的に読んでいる職員は少ない。		
5	4	○市町との連携  市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	事業所は、市町担当者と運営推進会議にて話し合い、市町とともにケアサービスの質の向上を目指している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>全体会議で、身体拘束についての勉強会を行い、身体拘束をしないケアについて、職員の意識統一を図っている。また、研修会にも参加し、日々拘束は行わない事を職員全体が認識してケアにあたっている。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>管理者や職員は、事業所内で虐待が起こらないように、また虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、言葉による虐待や、入居者の希望を制限するなどの虐待を含め、虐待防止に努めている。利用者については入浴時に皮膚観察を行うなど、異変が無いが常に注意を払っている。会議にて虐待の防止について研修を行っている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>現在入居されている方にも、成年後見人の方がおられるが、詳しく制度などについては、分かっていない職員が多くいる。今後会議などで勉強会を開きしっかり知識を持っておくようにする。そうすることで家族からの要望や質問に的確に答えて行きたい。</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>面接時、家族の不安や疑問などがあれば契約時に契約内容の説明をしっかり行い、納得して頂いてから、契約をしてもらっている。また、事前に見学を行ってもらい、しっかりとえぎ野を理解してもらってからの契約を行うように努めている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>開設当初より家族会を発足し、家族会を通して要望等を上げて頂けるように話をしている。また、直接要望などを言うて頂くように契約時にも話をしており、意見・要望があればできるだけすぐに改善するようにしている。</p>		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	月に一回、会議を開き、また茶話会などで管理者に話をするなど意見交換をしている。日頃から不満・苦情など気軽に話が出る様に、職員とコミュニケーションを図っている。		
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	向上心を持てるように、ユニットの年間目標及び個人の目標を作成している。受けたい研修を聞き希望に沿った研修に参加出来る様にしている。		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	各職員の希望に沿って、施設外研修に参加してもらい、また研修報告によって現場に還元している。		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	安芸地区地域密着型サービス事業者交流会を定期的で開催し参加し他施設とも積極的に交流をもっている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	サービス利用開始前には、本人の要望にしっかりと耳を傾け、安心して頂けるよう、努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>サービス利用開始前には、家族の要望や不安などを聞き、しっかりと受け止める努力をしている。家族の想いを尊重し、信頼関係を築くことに努め、本人だけでなく、家族を支える努力をしている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>出来る限り、本人や家族の要望に応えられるように努め、訪問マッサージなど他のサービスの利用も積極的に行っている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>理念に則り、家族として共に生活する者同士として、介護される一方的な立場におかず、思いやりを持って接している。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>積極的に面会に来て頂くことや、電話をかけて頂くことをお願いし、事業所と家族が共に本人の生活を支えていくように努めている。家族会で行事を行い、共に楽しむことを心掛けている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>知人、友人からの手紙や面会に来て頂くことで、今までの人間関係を出来る限り続けて行けるよう、努めている。馴染みの美容院や場所などに、家族に連れて行ってもらえるように、働きかけている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者同士の相性や関係性を見極め、良好な関係性を作り、保てるよう、職員が働きかけ、支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	本年度は実施していない。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者それぞれの思いや要望を大切に、しっかりと把握出来るよう、努めている。把握が困難な場合、家族に相談するなどして、本人視点に立って思いを汲み取ることに努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	初期面接時に本人の生活歴を本人や家族に聞き、把握に努めている。日常会話などからも、これまでの暮らし方などを聞いている。利用者基本情報として資料も作成しているが、大まかな把握に止まり、家族に話を聞くなどして、今後もっと深く本人を知る努力が必要。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	一人ひとりの日々の過ごし方や生活パターンをきちんと把握するよう、努めている。出来ることと出来ないことを見極め、生活の中で活かせるようにしたいが、なかなか実践出来ていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	本人や家族からアセスメントを行い、要望が叶えられるように介護計画を作成している。		
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	個別の記録用紙に利用者の様子や状態、職員の気づきなどを記入している。それぞれの職員が記録を読み、情報の共有し、ケアに活かすことを心掛けている。		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	その時々生まれる本人や家族の要望に対し、出来る限り柔軟に対応するように、努めている。		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	フルート演奏や、絵手紙作成ボランティアに月一回来て頂き、一人一人の活動を引き出せる様に、支援している。		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	本人、家族の了承を得てかかりつけ医の受診を受けている。往診による診察は隔週で行っている。(また体調不良時は診察も可能。電話での連絡は24時間取れるようになっている。)入所前からのかかりつけ医を継続するのも自由で、受診時に状況報告したり、往診時、看護職が立ち会うようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>異常時の報告や、気づきなど看護職に伝え、個々に適切な対応や指示を受けている。必要があれば、受診や看護が受けられる様に支援している。(日常のバイタルの異常、入浴、排便、いつもと違う様子など。)</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入退院がスムーズに出来る様、病院関係者との情報交換や相談に努めている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>重度化した場合や、終末期の在り方について、入所時の考えを本人、家族に説明している。必要時期になったら、本人家族の思いを汲みながら、地域関係者ともチームで取り組んでいく方針を持っている。</p>		
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>急変時、事故発生時に備えての訓練は徐々に行っているが、(AED使用法、救急蘇生法など)現時点で職員全員が実践力を備えているとは言えない。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>年2回、防火訓練を行っている。事務所に避難経路や消防に通報する設備を備えている。地域の方に参加要請を行っているが、参加には至っていない</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	一人一人の人格を尊重し、一人一人に合った言葉かけに努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	着て頂く衣類などを、本人と一緒に決めていく。おやつの時間など、何が飲みたいかを、本人に聞いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	入居者本人の要望やペースを優先し、本人らしく過ごしてもらえる様、支援している。手紙を書いたり、昼寝をしてもらうなど。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	着替え時、自分の好きな服を選んでもらっている。整容時には、馴染みの化粧水やファンデーションを使って頂くなど、支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	入居者に好みを聞きながら一緒にメニューを考えたり、入居者に出来る手伝いはして頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>一日の水分量を1200CC以上とし，水分チェックを行っている。体調不良など状態に応じて，水分量を増やしている。栄養バランスについては，もう少し考慮していく必要がある。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>食後は必ず，口腔ケアをして頂いている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>食前，食後の排泄の声掛けを行っている。排泄記録などを見て，本人の排泄パターンを知り，トイレ誘導を行っている。</p>		
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>看護師と相談しながら，服薬を行ったり，食事の栄養バランスを考えたり，運動の支援など，予防に努めている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めず，個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>一日間隔でゆっくり入浴出来る様に，支援している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。</p>	<p>本人の生活習慣に合わせて、好きな時間にゆっくり休んで頂けるよう、支援している。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>薬の一覧表を作り、一人一人が服用している薬の理解をしている。薬の変更があった場合、連絡ノートで申し送り、状況把握を行っているが、薬の変更が多い為、全て把握できてない職員もいる。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。</p>	<p>毎月、外出行事など行う事で、日々の楽しみを持ってもらえるように考えている。来年度からは、職員が、一人ひとりが企画して年間行事作成している。また、季節季節の地域行事にも積極的に参加できるようにしている。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>地域の盆踊り、平和公園のイルミネーションなど、普段は行けないような場所への外出支援なども行っている。</p>		
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	<p>買物時には、本人に財布を持って頂き、金銭の支払いなど、自分で行ってもらう様、支援している。</p>		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	手紙を書いてもらい、スタッフが同行し、近所のポストに投函してもらっている。		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	花を飾ったり、季節に合った掛け軸を掛けたり、飾りを利用者と一緒に作成したりしている。		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	ソファなどを設置して、入居者同士で会話が楽しめる様に、支援している。		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	各居室は、本人や家族と相談し、馴染みの家具を配置するなどして、くつろげる空間を提供出来る様に努めている。		
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	バリアフリーで安全な生活を送って頂ける様に、支援している。		

V アウトカム項目（あおい）			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式3)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームもえぎ野

作成日 平成 23 年 6 月 17 日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	町内会の一員として地域行事への参加を行っており、もえぎ野での入居者さんの生活が少しでも地域の方々に知って貰う為に、もえぎ野掲示板を設置し地域住民への情報発信を行っているが、掲示板を知らない方が多い。	町内会の掲示板にもえぎ野活動を掲載させて頂く。	今後も、もえぎ野掲示板を継続して情報発信を行い、町内会長さんなどに話を行い、理解してもらい、町内会の掲示板を活用し情報発信を行う。	2か月
2	13	現在、年2回の防災訓練が行われているが、地域全体での取り組み活動を構築していない。	地域ぐるみで防災体制を構築する。	年に1回、消防署員の方をお招きし、運営推進会議に参加してもらい、ご指導を頂く。地域住民の方々には、まづもえぎ野で行う防災訓練に参加して頂きながらもえぎ野の入居者の状況及び施設の構造を理解していただき協力体制を構築していく。	12か月
3	12	看取り、重度化への対応について、今後の対応が決まっていない。	全職員が看取り、重度化への対応の意味を理解し、取り組んでいく。	ホームで、担当職員(看取り・重度化への対応委員)を決め、その人を中心として、看取り・重度化への対応をどのように進めるのかを考えていく。研修等にも積極的に参加してもらい、研修で習ったことを会議などを通じて発表し全職員の資質・意識を高めていく。ご家族に対しての対応方法もしっかり勉強していく。	12か月

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。